

## 早期結実が可能なリンゴの ポット養成フェザー苗の育成法

リンゴの改植は生産性向上のために有効な手段の1つですが、多額の投資を伴いますから、未収益期間を短縮する方法が求められています。そこで、岩手県で普及しているJM7台木を利用し、本県で開発したポット養成苗利用による大苗移植栽培法と長野県が開発したベンジルアミノプリン液剤（商品名：ビーエー液剤）の散布によるフェザー苗養成技術を組み合わせ、早期結実が可能な苗木の育成を可能にしました。

### ☆ 技術の概要

1. JM7台木の1年生苗木を不織布ポットに移植し、新梢伸長期からベンジルアミノプリン液剤を散布します。それにより、定植当年から結実可能なフェザーが多数発生した2年生苗木が育成できます（図1）。
2. ポット養成フェザー苗の具体的な育成方法は、以下の通りです。①発芽前に不織布ポットに移植した1年生苗木を養成圃場に定植し、接ぎ木部から40cm程度の高さで切り返します、②展葉期頃に先端の生育良好な1芽を残して、全ての芽をかき取ります。③ベンジルアミノプリン液剤は、主幹延長枝が20cm程度となった頃から散布します。1回目は主幹延長枝全体に、2回目以降は新たに伸長した部分に散布します。散布間隔10～15日で、計8～9回散布します。



図1 フェザーが多発した'ふじ'苗木（左）、定植当年の'シナノゴールド'結実状況（右）。

表1 ポット養成フェザー苗定植当年の10a 当たり収量（植栽距離を4×1.5mとして算出）

品種名	収量(kg)
紅ロマン	29
きおう	27
紅いわて	52
もりのかがやき	42
シナノゴールド	137
大夢	8
ふじ	12
はるか	12

### ☆ 活用面での留意点

1. 苗木の育成目標をフェザーの合計本数15本、5～50cmの長さのフェザー10本程度とするとき、ベンジルアミノプリン液剤の処理濃度は、'ふじ' 'もりのかがやき' 'はるか' では100倍、'紅ロマン' 'きおう' '紅いわて' 'シナノゴールド' '大夢' では50倍とします。
2. 苗木の生育が劣ると、十分なフェザーが確保できないこともあるので、生育良好苗の使用、乾燥時のかん水の徹底、6月頃から生育状況に応じた追肥、が必要です。
3. 詳細については、岩手県農業研究センター（電話：0197-68-2331、電子メール：CE0008@pref.iwate.jp）にお問い合わせください。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 井原史雄）